



私も京都外大図書館を応援します(1)

家族はみんな国際派

なかたにしんじろう
中谷進次郎さん



長女の香織さんは本学英米語学科の卒業生。たまたま今春、本学図書館の改修工事のインテリアを担当していただいた。カナダへ1年間留学された香織さんのもとへご夫婦で訪ねられ、「カナダは美しい国、娘のお陰で海外旅行をしてきました。娘と合流するまで自分の英語でなんとかになりました」と振り返る。このようなことから、本誌『GAIDAI BIBLIOTHECA』の前号をお嬢さんへ、とお渡しした。次にお目にかかったら「娘が喜んでいました。懐かしがってましたよ」と、私たち図書館員にとっても嬉しいお言葉。

ご自身は早稲田大学商学部のご卒業。学生時代は第二外国語でスペイン語を専攻されたという。「京都の街中で、中米のホンジュラスの方とスペイン語で話しました。学生時代に覚えた単語と文体を使って簡単な会話ができました。もっと語学の勉強をしておけばよかったのですが」と謙遜しながらも、「娘がカナダ留学で知り合った韓国、スイス、カナダ、アメリカなどの友達やインドネシア、台湾などの留学生も家に来られ、気持ちに通じます」。ご家庭は全員が国際派のようだ。

本学図書館のカウンター前ロビーや第三閲覧室の工事に際して「最近の図書館は美的感覚も大切です。この図書館で使われているツキ板（木製壁）の原材料チークは、最近大きな原木が少なくなってきていて、このような大きな美しい木目は貴重なもの、どうか大切にしてください」と、淡いブラウン系の色調の重厚さに高い評価をいただいた。

インテリア会社の役員としての長い経験から、チーク、メイプル、オーク、ローズウッドなどの原木の種類を紹介して、「天然木の持つ深い味わいが、この部屋に安らぎと落ち着きのある雰囲気を醸し出している」と本学図書館の建築上の特徴を賛え、「早稲田の大隈講堂も外見をそのまま残して、内部をうまく改装しました」と母校愛もにじませた。

大学図書館の仕事に携わることで、ご自分の学生時代を思い出しておられるのか、仕事に励む目がひとときわ輝いていた。

(文・奥 正敬)

.....
株式会社洛彩工房専務取締役。奥様と一男一女の4人家族。趣味は旅行、クラシックギター、カラオケ。京都市に在住。